

非 会員限定版 : JACLaP WIRE No. 149 (2013年11月13日)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞JACLaP WIRE No. 149です。

===== << 目次 >> =====

【新規収載項目】

HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
抗トリコスポロン・アサヒ抗体

本号のJACLaP WIREは自由に転送可能です。

===== << JACLaP WIRE >> =====

平成25年5月より保険適用

[微生物核酸同定・定量検査]

HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)

準用区分先 : D023-5 区分E3 (新項目)

【保険点数】360点

【製品名 (製造販売元)】

コバス4800システムHPV (ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社),

アキュジーンm-HPV (アボットジャパン株式会社)

【主な対象】

子宮頸部細胞診にて意義不明な異型扁平上皮 (atypical squamous cells of undetermined significance; ASC-US) と診断された患者

【主な測定目的】

子宮頸部細胞中のヒトパピローマウイルス (human papillomavirus; HPV) 16型, 18型及びその他12種類のハイリスク型DNAの検出

【有用性】

従来の13種類のジェノタイプのハイリスク型HPV核酸検出に加え, より悪性度の高いHPV16型と18型の個別同定が可能になり, 子宮頸がんの早期発見, 早期治療を可能とする

【測定方法】リアルタイムPCR法

【検体】子宮頸部細胞

【特徴】

本品は, 検体中のHPV16型, 18型, それ以外のハイリスク型12種類 (31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66及び68型) HPV DNAを同時に検出するキットである。子宮頸部細胞から抽出した核酸を検体とし, 14種類のハイリスク型HPVの各々のジェノタイプに特有な部位を標的に核酸増幅を行い, HPV16型, HPV18型, その他12種類 (HPV31~68型のどれか) の3タイプに層別して検出するものである。

子宮頸がんの主因はHPVであり, HPVの持続感染によって子宮頸がんに進展することが明らかとなっている。子宮頸がんとの関連が強いと考えられる15~18種のハイリスク型HPVの中でも, HPV16型及び18型は子宮頸がんから検出されるHPVジェノタイプの中で検出頻度が最も高く, 特に浸潤性子宮頸がんの約70%に参与していることが既に国内外で報告されている。国内で実施された臨床性能試験の成績においても, HPV16型及び18型陽性者は, 従来のハイリスク型HPV陽性者と比較して子宮頸部前癌病変を有するリスクが高いことが示されている。

従って, HPV16型/18型の同定検査を用いて進展リスクがより高い女性を精度高く抽出・層別化し, 適切な症例管理を実施することは, 子宮頸がんの早期発見, 早期治療に寄与すると考えられる。

なお, HPV核酸検出は, 一連の検査につき複数回のHPV核酸検出を行った場合においても, 1回しか算定できない。

コバス4800システムHPV (ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社)

<http://www. roche-diagnostic. jp/news/13/05/10. html>

アキュジーンm-HPV (アボットジャパン株式会社)

<http://www. abbott. co. jp/medical/product/amd/pcr-reagent/hpv. html>

平成25年6月より保険適用

[自己抗体検査]

抗トリコスポロン・アサヒ抗体

準用区分先 : D014 区分E3 (新項目)

【保険点数】900点

【製品名 (製造販売元)】トリコ・アサヒAbチェック (株式会社シノテスト)

【主な対象】夏型過敏性肺炎が疑われる患者

【主な測定目的】

血清中の抗トリコスポロン・アサヒ抗体の検出（夏型過敏性肺炎の診断の補助）

【有用性】

夏型過敏性肺炎の診断には、これまでは、主として帰宅誘発試験が用いられてきており、臨床像からだけでは他の原因による過敏性肺炎との鑑別も困難であった。原因真菌として分離頻度、抗原陽性率が高いトリコスポロン・アサヒ (*Trichosporon-nasahii*) の特異的抗体を検出する本検査により、誘発試験による患者への負担軽減と、夏型過敏性肺炎のよりの確な診断が可能となる。

【測定方法】ELISA 法

【検体】血清

【特徴】

夏型過敏性肺炎はわが国の過敏性肺炎の75%を占め、近年増加している。真菌によるアレルギー疾患であるため、世界的にも多湿な日本には多いといわれている。夏期に住居で増殖する真菌により発症し、冬期に入って真菌の増殖が止まると病状が改善することが多い。発症環境が家屋にあるため家族性の発症をみることがあり、年を隔てて再発する例もみられる。ときに重症化や慢性化を認めるため、迅速かつ適切な診断、治療が必要とされている。

夏型過敏性肺炎の診断には、これまで主として帰宅誘発試験が用いられてきており、臨床像からだけでは他の原因による過敏性肺炎との鑑別も困難であった。吸入誘発試験は原因抗原の決定に有用であるが、危険を伴うこともあって通常の一般臨床において施行されることは少なく、血清中の特異抗体を検出する検査が求められていた。また、原因真菌として知られているトリコスポロン・アサヒ (*Trichosporon-nasahii*)、トリコスポロン・ムコイデス (*Trichosporon-mucoides*)、トリコスポロン・オボイデス (*Trichosporon-ovoides*) などの中では、分離頻度、抗体陽性率が高いトリコスポロン・アサヒが最も重要と考えられていた。

「トリコ・アサヒAbチェック」は、antigen-captured ELISA法によって血清中の抗トリコスポロン・アサヒ抗体を特異的に検出するものであり、検体採取から結果判定までに要する時間はおよそ24時間と比較的迅速である。343症例（夏型過敏性肺炎147症例、対照196症例）を対象とした臨床性能試験の結果、無病正診率は91.3%、有病正診率は85.0%、診断効率は88.6%と良好な結果を示した。本検査により抗トリコスポロン・アサヒ抗体を簡便・迅速に検出することで、夏型過敏性肺炎に対する適切な治療が可能となり、有用性が高い。

トリコ・アサヒAbチェック（株式会社シノテスト）

<http://www.shino-test.co.jp/ssl/commentary.html#commentary04>

（文責：東京大学 矢富 裕）

各製品情報のホームページは仕様変更などによりリンク切れとなることも
ありますのでその際は御容赦ください。

日本臨床検査専門医会 事務局

TEL 03-3864-0804

FAX 03-5823-4110

E-mail: senmon-i@jaclp.org

JACLaP WIRE No. 149 (2013年11月13日)

☆発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

☆編集：JACLaP WIRE編集室 編集主幹：盛田俊介

東邦大学医療センター大森病院臨床検査部

TEL:03-3762-4151 (内線3434) ・ FAX:03-3762-9730

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名、 2. 現行登録アドレスと3. 変更希望メールアドレスを添えて

senmon-i@jaclp.orgまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

<<Thu, 02 Oct 2014 15:07:08 +0900>>